

月乃出羽路

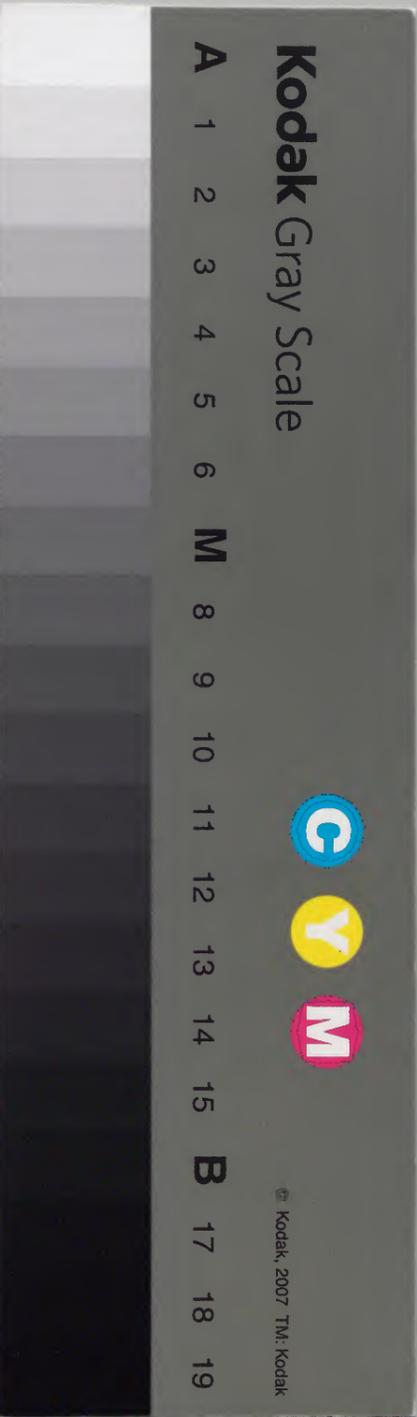
十三

					和書門
				二九一五七	
				一二六	
				七八	
冊	架	函	號	類	

庫	文	閣	內	
二七	二九一五七			和書
函	七八			
一八	七八			
架	冊	號	類	

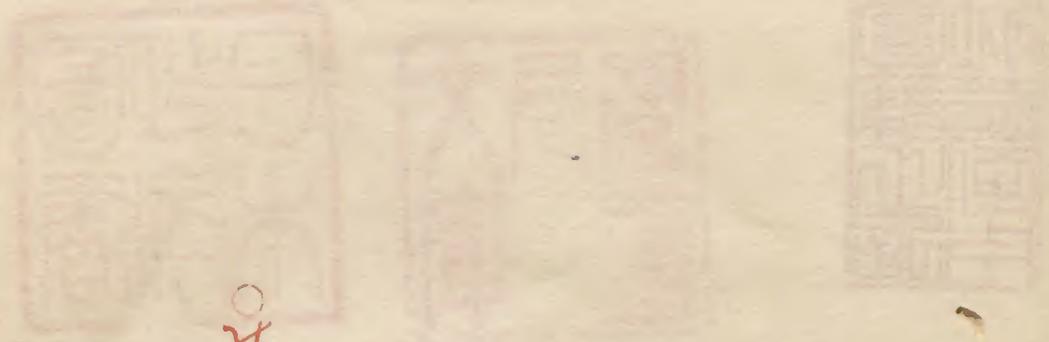
內閣文庫	
番號	和 29157
冊數	78 ( 53 )
函號	177 901

丙 1097



月山雨泣 甚在云  
卷付四十五卷中

校心



○此の志懐より下

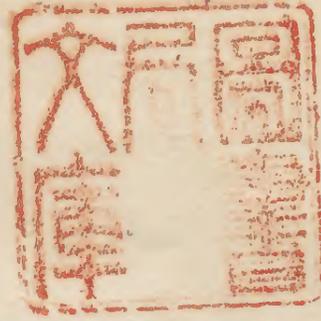
○十三卷

九

○慧日山淨光寺

東汎

内一〇九七四號



○浄光寺

東流

○慧日山浄光寺、東本願寺、東院之とも、此寺、常陸  
 國水戸吉田湊の浄光寺より別遷たす寺之や、二の傍漢之  
 才圖會云、常光寺、常陸國在、那珂郡吉田湊村、高流  
 内、四輩開基、唯佛房、初、在茨城郡吉田、枝川、中  
 台、移于此、と見え、り當寺の記、淨子開祖と慶真法  
 師と、水戸吉田湊、條川の浄光寺の開基、唯佛房、即八  
 世圓定、次男、慶真之、同國、古内、御サテ、明德二年、壬申  
 三月、一字と建立して、條川の浄光寺と号、則今の浄  
 光寺是、永亨七年乙寅十月九日遷化、寿七十五歳と  
 見え、り此西流より出、り東の流より改流とぞいけ

慧日山浄光寺

東流

十三卷

1104712

〇開祖慶真法師。〇二世慶永。此二世より六世まで  
 生死年月不悉。〇三世慶目。〇四世慶専。〇五世  
 慶剛。〇六世慶了。七世慶順。天文廿三年甲辰  
 五月二日化。此代常陸水戸の古内御より陸奥南部  
 九戸へ移る。〇八世慶應。天正十九年三月三日化。此代小  
 陸奥南部九戸御より出羽山北山本郡中野村へ移住せり。  
 此次男明珍月郡畠谷村へ。天正二年一字と建立す。  
 即今の西空寺是也。〇九世慶心。寛永十八年八月三  
 日化。〇十世慶全。寛文九年六月朔日化。〇十一世慶傳  
 文祿五年八月五日化。〇十二世慶智。正保五年四月  
 五日化。〇十三世慶哲。元文元年四月七日化。〇十四世



慶文。天明二年二月十五日化。〇十五世教信院慶晴。寛  
 政十年九月廿四日化。此代寺領十五石求。〇十六世當時  
 現住慶景代也。

所藏什寶品

繪像 三方正面弥陀如来

一軸

此御長一尺許 元祖觀鸞聖人真筆

〇南无阿弥陀佛。トナフレハ堅牢地祇。尊敬カケ  
 トカク子ノコトクエテヨルヒルハ子ニモルナリ

右現世利益和讃一首 因ノ如シ親鸞聖人真筆

〇小倉百人一首 水戸様所と称ス水戸に在リ

〇木兔の番燭。 山北郡六郷安樂寺跡畠より堀り

和光山長明寺  
東派

東西六十三間六及五畝三歩  
南北三十一間六及五畝三歩

○方地

十 ○和光山長明寺 東派

○長明寺

東流

○長澤和光山長明寺（真言安樂寺の舊跡に建つ）  
 ○當寺開祖（念僧法師、諱稱性、清和源氏支流保實朝臣）  
 父長沢清義、則長沢氏の上祖之前祖、家傳の佛  
 像の瑞光を感して、文明四年春三月發心して本山毎の大をこ  
 蓮如上の所弟子あり、法名と念僧と賜、常隨の功積りて三年に  
 及びぬ、明應二年の以奥州に於て淨祐と云僧の異語と以て衆人を  
 惑せしめて、念僧、道師の教令と並び、隆興、下向の元  
 此別を以て賜、光明本、云字、公號、方便法身尊形及、  
 上人自画の真影と以て、諸人の教化、淨祐、吳、云、云、云、云、破滅し  
 於其功と以て、本山の第九世の實如上人、真業に、長明寺と書、賜

それより、同石新修致。平沢に居るに、應永卅三年に、永正六年  
九月七日、遷化、寿八十四歳、廣濟坊と謚す。

○二世了順。念僧廣濟の嫡子、俗姓河氏、民部豊前守  
國實と云、父の保實と云、出家し、蓮如上人の所、弟子と云、  
法号と云、順と賜り、長祿元年に、着れ、天文三年、甲午十月  
廿三日化、寿七十八歳。

○三世浄順。了順の嫡子、俗姓長沢、兵部少諱を、  
満實と云、實如上人の弟子と云、延徳二年に、生れ、永祿二年  
六月廿五日化、寿七十歳。

○四世了意。浄順の嫡子、證如門跡の所、弟子と云、  
天正二年、甲戌三月十六日化。

○五世徳浄。了意嫡子、諱直義と云、顯如上人の  
所、弟子と云、天正二年、同上人の所、也、云、  
院如上人の真像  
と賜り、天正某の、本山石山に、於て、信長に、  
攻られし、に、徳浄  
軍功あり、其故より、教め、所、門跡、賜り、  
如の、十字、此、号、並、所、書  
と、云、天正某の、と、  
奥州、羽、竹、仙、山、に、  
移り、住、を  
り、て、天正十七年七月二日化。

○六世常賢。又、諱、徳浄、嫡子、諱、直義、定と云、  
文祿三年、城主、兵庫頭、殿、の、招、き、應、り、て、  
横、津、に、  
お、り、て、  
寺、町、小、  
移、住、せ、り、  
時、  
兵、部、  
以、  
殿、  
と、  
若、干、の、  
寺、  
領、  
と、  
寄、  
附、  
と、  
慶、  
長、  
十、  
年、  
教、  
如、  
上、  
人、  
と、  
顯、  
如、  
上、  
人、  
の、  
所、  
真、  
影、  
と、  
賜、  
り、  
寛、  
永、  
元、  
年、  
宣、  
加、  
上、  
人、  
と、  
宗、  
祖、  
聖、  
人、  
禮、  
盤、  
三、  
牖、  
の、  
真、  
影、  
並、  
聖、  
徳、  
太、  
子、  
の、



真影及三朝高祖の真影と賜、寛永二年、洪鐘と鑄、此年  
本山に請て常願寺と建立、天正七年八月七日化、寿五十一歳。

○七世淨誓、常賢嫡子、諱ハ滿清、寛永十三年五月廿日  
宣如上人の許とて飛擔の造む、寛永五年常如所門跡より

祖師聖人の所縁記四幅と賜、天和三年八月廿二日化、寿六十九歳。

○八世淨哲、淨誓の嫡子、諱忠貞、寛文三年二月廿五日

飛擔の継目、貞享五年四月廿八日、本山に請て常觀寺と改て

西傳寺と稱ゆ、正徳三年五月十五日寺内の了伯庵之本山に請て本證

寺と稱せり、まゝ玄智と覺永寺と稱ゆ、享保七年四月八日化

寿七十五歳。

○九世了智、淨哲次男、諱清忠、舎兄淨圓、早世せり。

寶永八年三月十三日飛擔継目、享保十七年五月廿日化、寿五十二歳。

○十世淨智、了智嫡子、諱忠久、享保十八年六月十六日飛擔の

継目、寶曆十年六月閑居、微妙庵とて、安永四年六月十日化、寿六十七歳。

○十一世花常院、智淨、淨智嫡子の童名、民部、諱經久、寶

曆七年十月廿日飛擔継目、了智、曉と稱ゆ、其後曉字、本山の

禁字、つとて、智教と作む、天明八年五月廿一日、乘如上人寺跡、拾

別の由緒とて、竹間一間、通下、名を智淨と改む、寛政七年

乙卯八月廿五日化、寿六十二歳。

○十二世權律師淨諦、智淨嫡子の幼名、掃部、若名、

兵部卿、天明八年五月廿日、餘間継目、寛政五年癸丑十月

十日、權律師と勅命せり、寛政八年丙辰二月三日任職の

御座見享和二年三月二日達如所門跡入内陳上進了文化  
十年有月居也。

○十二世當時現任淨慶。淨諦嫡子之幼名哲春若名  
中時文化五年閏六月二日得度文化八年二月二入院内陣  
繼目。文化十年五月任職面也。中山南本誓寺之。

○吳世寶物

- 光明本尊 一幅 覺如上人 亦真筆
- 方便法身尊形 一軸 蓮如上人 亦真筆
- 十字名號 教如上人 亦真筆 一軸
- 聖德太子真影 一軸
- 證如上人真影 一軸
- 六字名號 一幅 蓮如上人 亦真筆
- 蓮如上人自画真影 一軸
- 宗祖聖人真影 一軸
- 三朝高祖真影 一軸
- 顯如上人真影 一軸

○從如上人真影 一軸 ○乘如上人真影 一軸

○祖師聖人緣起 一軸 ○十二光佛 一軸 善信上人亦筆 蓮如上人亦書

○源空上人真影 一軸 祖師上人亦真筆

○延命地藏尊 一軸 空也上人筆 九字名號 蓮如上人 亦筆 一軸

○十字名號 蓮如上人 亦筆 一軸 ○半金色善導大師影 源空上人 亦筆 一軸

○九字名號 蓮如上人 亦筆 一軸 ○額寺号 善信上人 亦筆 一軸

○達磨像 混首 亦筆 一軸

○座弥陀画像 源信僧都 亦筆 源信僧都真筆 多田滿仲公所附 爲由長沢家傳來。

○花常院真影 蓮如上人 亦筆 念僧法師自画真影 一軸

○木佛尊像 一軀 源信僧都 亦筆 ○木佛圓仁大師所作。

○祖師聖人御作 木僧 信濃國松本善福寺 亦筆

○觀世音像。古來清義安置像之  
長沢家傳來

○國ノ一字ノ一軸。國守佐州義重公所筆。

當寺六世常賢代并領之裡書より其年月句。

○誕生釋如来木佛。傳教大師所自作。

此木像古來河内池邑善兵衛といふ人の家ニ安置せしと  
ゆふありし、當寺に寄附せし世人是と云ふ四月八日、  
解れてまゐりしなり。

武器 重寶

○短刀壽命作刀。肥後守國康作刀。

○慶長己前古物

○證如上人真影。顯如御門跡讚云。弘誓強縁多生  
難值真實淨信億劫已獲遇獲行信遠慶宿縁

此裡小、釋顯如、書印あり

○證如上人真影。天正二載甲戌八月廿五日書之

奥而斯波郡平沢長明寺當什物也願主德淨

○顯如上人真顯。教如御門跡讚云。

必至无上淨信曉。三有生死之雲晴

清淨无碍光耀明。一如法界真身顯

此裡書小、本願寺叙教如書印

○顯如上人真影。慶長十一年丙午六月四日

出羽國仙北山本郡六郷。願主釋常賢

寺町長明寺常什物也

○了意法名。一幅。永祿三年七月廿日

顯如上人真筆

○徳淨法号 一幅 天正十七年七月二日

○教如上人御書 一通あり 手文よ。

一尋死むくしん仍為を

銀子初来の道跡にそを

是の抄書を院にお累に

一尋の處より是候を以て

お少平のいりる母を以て

一尋の母も唯お少平

一尋に後生ゆり又たのむ

一尋の強死も其也信定

一尋の系一尋は安永の御云

ありとつらさしは我人

一尋の母も其也信定

道のよきものあり我抄書

一尋の母も其也信定

四月廿八日 教如御書印

長門寺

門徒中

○瑤如上人御書 一通

抑今日お如上人乃西明日をふりて

此書を身りけり抄書よ其也

結了り泉集の座申了をひく信心  
 妙法に授けりく、毎月の念を更し  
 不修なきもの、去修心を獲得此  
 以修、新切報此心より修し修し  
 修治の取教はると信心より申す  
 此れより何れも、あましく、法より  
 法より心をかく、まや、まは、南に  
 以修地、万行を、西に、まは、まは、  
 まは、まは、宗家大師首領定まは  
 名是善若比念仏者有北比修也  
 と教し給ふ、自修の法と、名修まは

らぬき、あましく、あましく、  
 切修と、前生、白向志、修地の本願  
 ぬく、信して、まは、修し、修し、  
 名は、まは、まは、まは、

八月五日 隆如書印

出羽國山形郡  
 仙北郡長瀬寺

本日誦中

○弥陀薬師観音種子碑  
 永和二丙辰三月刻了り  
 其心、真言宗流安樂寺の舊跡多し、年々、知れ多し

○寺領

本田拾五石

○方地畧

○東西六十五間六及二畝廿九步。南北廿九間六及二畝二十九步。

十一

○地福山廣照寺

○東汎

○廣照寺

東流

○地福山廣照寺、本山、東本願寺、中山、奥州南部赤誓寺、  
當寺開基い○釋專聖、越前國長沢出產藤井氏、  
某の嫡男三男藤井某い者檀越い成いて同國住い  
天文弘治の間い一時、其母い我い同いちて越前いの居い住いを  
引いて藤井の二男某い者、其母い引いて斯波いの古田いと、  
地い引い移い、此い不い三い宇いと建立い、考い、永祿いの年いにい了い、  
遷化いの年い号い不知い、八月廿五日化い。

○二世賢擔、○三世賢明、○四世賢祐

斯波の兵亂いの為い、當い主い仙北い、幡谷村いにい移い居い住いせり、  
考い、天正慶長いの間い、其い後い。





○十世賢龍、字龍白、雄勝郡湯澤御行圓寺の舎弟之。元録十五年五月十三日行年三十六歳化。

○十一世慧祐、初名龍玄。○十二世正圓。○十三世臨中。享保四年十二月二十七日化。○十四世義雲、平鹿郡大谷村光徳寺舎弟、後見之。其後遷化年月不知之。

○十五世幸雲、臨中嫡子之。此代天明五年乙巳六月古洪鐘再鑄。○十六世當時現住、稱雲諱界應之。

○畧地

○二十間一及七畝十步。○二十六間一及七畝十步。

○本山所免之、寺寶多記。

十二

○花卷山珀淨寺

東派

○珀淨寺

東流

○花卷山珀淨寺開祖陸奥國捍貫郡膝立城主藤  
枝尾張永堅として、（りゅう）武士（し）の祭心滌衣の多（た）かりぬ  
そ明應四年乙卯とす ○南部捍貫郡花卷安淨寺  
同斯波郡太田碧淨寺此出羽の仙北郡六郷の珀淨寺此  
三箇寺ハ、（ま）んじんとて丸山ハ、（ま）んじりといふ

○開基永堅

○二世永了

○三世淨玄

○四世玄西

天正五年  
中捍貫

郡上根子村寺地願上  
引縁り居住ありと傳ふ 是花卷の安淨寺の系譜あり開山  
の何祖ぞれ此（ま）んじり珀淨寺の開祖累代安曲（ま）らり

○中興祖と善了とす 正保元年甲申四月十六日遷化 ○二世圓祐言

万治二年乙亥十二月十六日化 ○三世玄栄元録十五年壬子九月廿三

○四世。○享保三年戊戌七月十三日化○母玄智享保  
五年庚子七月三日化○六世哲善○七世了知○八世智證  
○九世法吟○寛政十年戊午正月十八日化○  
○十世當時現住○智明

○町内

○拾三間一及二畝四步○廿八間一及二畝四步

十三 ○吉水山善證寺

東派

○善證寺

○東流

○吉水山善證寺。東本願寺直末院。西流より吉水山善證寺なり。此寺の住僧。遷化の後南部より養子のより。また河内の祐心と住職とせり。檀越の衆人より大なる施ありて。檀家二つ別れては寺号山号とも。東流の寺一宇建。まじり本宗派にて養應二年癸巳閏六月廿九日山號寺号あり。ありきれ。東西ともに寺号山号同じ寺にありき。

○開祖釋祐心。遷化年号不知。土月廿九日化。記録焼亡して。四世より詳あり。○五世祐圓。正徳二年四月廿三日化。○六世祐玄。享保二十年七月廿四日。○七世祐智。寶曆十二年土月十六日化。○八世祐説。文化九年月七日化。



福田山大桂寺  
臨濟宗  
景川派

○大桂寺

臨濟宗 景川派

○福田山大桂寺 本山 浴西花園 妙心禪寺モト 古法雲山太桂寺  
其法雲山太桂寺 越後國上杉景勝朝臣領地 小千郡大久保村  
在り 寺之慶安のしり 武蔵國芝の高輪東福寺の僧新州  
和尚出羽國仙北山本郡六郷小来り 西鳥羽氏宗運俗名西鳥羽  
庄左エ門の  
家より止りて好い海防明神の傍地あり 行人古宅跡ヤシキに草庵  
と堂ムスの跡 迦趺座小せり 月とまろりて後二佛刹と開き 此寺と  
出て秋田郡小いりて矢搦村小大龍寺と建立せり 今大智心  
全良寺是れ大桂寺の古記録云々 宗運又正譽道順者 山城  
國西鳥羽産也 往昔為高沼于此地表 而大得射寶居  
住要欲定 師寶寺此地無 臨濟宗故終皈浄土門西作

本覺寺檀徒、矣。當院五世獅林和尚、記禄、師住、不幾、  
使拍院視篆、季、自、往、秋田、城府、建、大龍寺、（銘、今、今、の、  
全、良、く、）  
居住、矣、拍院住、不、日、檀信、皈、宗、於、此、命、洛陽、佛、工、而、新、  
彫刻、三世、常住、如來、本師、釈迦、文佛、尊容、而、香、合、香、灯、  
花瓶、基、燭、所、宜、在、之物、一時、新、成、矣、（云、と、又、之、）

○二世拍院和尚、永應三年八月入院、延室二、（甲、年、云、）

獅林古記有府君鈞命賜故羽林將、鑑院、啟、義、隆、之、  
飲、馬、地、為、道、場、（東、西、九、十、五、間、南、北、六、十、間、）、並、以、所、建、之、館、舍、盡、捨、  
會、作、紺、宇、今、佛、殿、是、也、（元、禄、三、丙、子、年、北、仙、和、尚、世、改、造、堂、也、）、始、号、福、田、山、太、

桂、禪、寺、是、故、以、鑑、照、院、殿、為、開、基、檀、永、令、供、香、華、矣、  
之、白、御、慈、館、舎、の、古、跡、寺、の、畝、内、カ、テ、寒、泉、（ミ、ト、コ、ロ、）

○御前清水、古木の大柱の根、（根、）、漏、つ、ま、り、大、柱、寒、泉、の、谷、カ、ル、

和、臺、所、清、水、御、慈、館、の、又、じ、料、は、湯、も、所、榮、水、カ、ル、（路、也、）

寺、鷹、匠、好、井、氷、室、山、の、時、多、の、料、多、し、山、下、の、降、  
の、雪、も、多、し、餅、と、ひ、ひ、と、し、て、お、か、け、後、の、寺、鹿、取、様、の、新、清、水、の、  
ま、り、も、多、し、考、（考、）、此、つ、氷、室、の、時、鷹、匠、の、家、カ、ル、（也、す、）

多、の、ひ、あ、り、る、清、水、の、本、大、柱、の、ま、り、ま、れ、（り、）、（大、柱、寺、の、ま、り、  
ま、り、と、ま、り、の、つ、）、極、法、の、名、も、後、に、（す、）

○觀音堂、舊記、寛文五、年、西、多、の、公、本、覺、寺、得、惠、心、  
僧、都、所、彫、刻、之、聖、觀、音、尊、容、（或、云、文、朝、）、而、安、置、于、道、  
俗、競、怡、（ハ、カ、）、宮、方、二、間、草、堂、感、應、無、量、殆、若、得、大、旱、雲、  
雨、矣、（云、と、又、）、觀、音、（所、長、一、尺、）、本、覺、寺、古、記、並、秋、田、六、郡、古、本、願、禮、記、小、

○正觀音河内國藤井寺の觀世音と尊瓦大佛師定辨作之云々  
ヤクヨ 伽藍圖基記十卷云佛工。後一條帝治安二年佛工  
定朝得法橋上人傳佛工綱位自朝始。朝造法成寺佛像。  
炬故登綱位。と云々云々。本覺寺の靈佛の滿徳長者  
保昌房寄附あり長久のち教圓河内利開眼のすうらと云々  
此大柱寺にありませり。云々。

○三世北仙和尚。寛永元年甲申土月八日化。

○愛深明王像一軀。運慶作。西鳥羽仁右門。法名長寄附。

其外天涅槃像九條。迦梨七條。法衣等。常什物等。此代。

十五品全く備り多し。

○四世靈川和尚。享保十年乙巳十月四日化。

○達磨画。探信筆。西鳥羽氏貞蹟尼寄附。

○蓮葉画。探函筆。同氏。左九郎寄附。

○徳山像。戸張佛蓮。其外。円家より。法衣。寄附多し。

○五世獅林和尚。寶曆五年乙亥三月廿七日化。

鑿子一口。古鑿破壊故置之。享保十二年。施主大友与治兵工。

麻利支天像。辻忍流作之。則寄附。法華經峽城全部。西鳥羽九郎左門寄附。法名云也。寄附。

楞嚴咒。花園本一卷。幡一雙。施主湯川清四郎。

此代寄附多し。書籍拾箱。西鳥羽九郎左門寄附。

○六世魯州和尚。此魯州和尚と云。村治を爲了。存の

次男。了存の實父。神官熊谷氏の故より出て。知名。志治

後。小治。在。寺。と云。中村の故と傳。普賢和尚の詩。日本詩選。



三卷五言律詩見之。夏日偶成。僧魯州。

多病苦炎執。蕭然坐草堂。蟬聲當戶噪。松吹隔

溪長。庭際年年鮮。紫頭日日香。與誰言此意。瞑目

到斜陽。安永八年己亥九月廿日化。壽四十三歲。

此日本詩選。魯州の實父了斎の句也。之云々。

○七世槐堂。享和三年癸亥十月廿日化。

右此五代入院年月不詳。什物粉。

○八世當時現任禪明和尚。

此寺景川流の妙心寺四流の内景川宗隆禪師の末流也。

○鎮守稻荷神社。末社杵尾明神。

○内東西五八間九反。三畝十六步。南北七間九反。三畝十六步。

○洪鐘銘

省寶永元甲申曆施主 昌譽豐長居士  
西島羽豐壽

匠人久保田住天明屋重兵衛

花園末技福田山大桂禪寺

現住北僊祖海記 正字



○長應山本善寺 日蓮宗

○本善寺 日蓮宗

○長應山本善寺、皇都廣布山本滿寺、末院之甚しし、  
中川清左衛門行滿と云く善提心と發して、此地よ草庵と云く  
法華ホクケ三昧サイメイありて七日ニヤリと讀誦と云くして、  
建ホ立トしキや多クきニに倣ヲて建テつルや、  
古キと号シしテ、年終ニて後ノおのの號ヲと改メて、長應トと云フ、  
天正テ十四年ニ丙戌ト三月ニ某日ニ辛ト巳ト法号ヲ當照院ト宗月居士トと云フ、  
○開祖、智善院權僧正、日宣聖人、二世本了院日清上人、  
三世法性院、日如上人、四世大教院日順上人、五世玄了院、  
日現上人、六世一妙院日進上人、七世是心院、日善上人、  
八世寂定院、日祥上人、九世受教院、日順上人、十世

圓妙院。日陽上人。十一世。廣善院。日理上人。十二世。真  
樂院。日昌上人。十三世。圓滿院。日長上人。十四世。本住  
院。日立上人。十五世。諦誠院。日遍上人。十六世。曉山院  
日新上人。十七世。高了院。日登上人。十八世。義性院。日運大  
上人。十九世。玄了院。日進上人。二十世。當時現任。負音院。日羽  
上人。生國武藏國大江山。本所。益川氏。三男之。

畷地

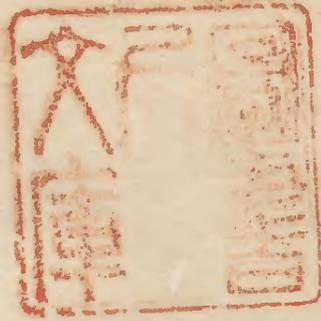
東西廿二間二及四畝六步。南北三十三間二及四畝六步。

○池中山臺蓮寺

○淨土宗

○喜至蓮寺 浄土宗

○池中山喜至蓮寺 大江戶の三縁山増上寺直末寺之當寺  
 開基八圓譽上人。應永六年八月十七日遷化。○二世春譽  
 上人遷化年月不知忌日三日。○三世蓮寺上人遷化年月不知  
 忌日四日。○四世樂譽上人遷化年月不知忌日六日。○五世靜譽  
 上人遷化年月不知忌日。○六世聖譽上人遷化年月不知忌日二日。  
 ○七世胎譽上人天文五年八月九日化。○八世光譽上人慶長四年  
 正月十日化。○九世照譽上人慶長十年三月五日化。○十世  
 虛譽上人元和三年四月九日化。○十一世心譽上人寛永九年  
 七月十三日化。○十二世正譽上人寛永十七年六月十七日化。  
 ○十三世曆譽上人正保二年三月廿二日化。○十四世九譽上人



延寶元年十月八日。十五世大譽上人貞享四年四月廿九日化。

○十六世叶譽上人享保十三年十月廿日化。十七世忍譽上人

享保十五年十月四日化。十八世迎譽上人室曆三年十月廿九日

○十九世廉譽上人室曆十三年六月廿九日化。二十世來譽

上人元文五年七月廿九日化。廿世方譽上人寬延四年五月

二十日化。廿三世蓮譽上人室曆五年三月廿二日化。廿三

世將譽上人室曆十三年四月十九日化。廿四世轉譽上人享和

元年七月廿日化。廿五世鏡譽上人文化二年三月廿七日化

○廿六世暢譽上人文政三年十月廿日化。廿七世當時現任

覺隨師之什物

○谷号二軸 祐天大僧正真筆。

名號 一軸 略白大僧正真筆。

○山号寺号 一軸 智堂大僧正御筆。

○小蔓茶羅 一軸 漢画之

○當麻曼陀羅摹本大幅此曼荼羅の裡畫に池中甚道寺住物

享保十二年打威佛生日遍譽吟阿弥佛謹題之。當日供養

導師。武江下谷英信寺九世善譽上人。中甚三尊表具施主

所志加右。稻葉玄喬正恒。戊戌之戌。毛利但了廣。豊城

龜井因幡守奉。真局。板倉甲斐守局富山奉之。江戶府内

日課弟子中。遠藤但馬守局。牧師内膳正康周。酒井誠

前守忠篤。彩色發願者佛繪師。三村三左門藤原

要英。為。父成譽順道。母心譽光順。菩提志所也。金返助力願主。清譽







○永泉寺

曹洞

○龍雲山永泉寺の鼻祖道叟道受禪師俗姓名  
 久米氏出羽國山本郡飯浩郡野守城守系又左門  
 尉行長の嫡男之此童子十六歳の事少少霖雨して定り  
 面小水流色水泡しり海之りよとてをち海らよの  
 中のありとを觀つて家出のころ一頻ここと一切有為法  
 如夢幻泡影如露亦如電應作如是觀の意小くありて  
 ありれいとゆい此男子父母よむいひてせまきいまを辞ぬき  
 けりつ又思ひきりてやせハ父母少かきりまは是と以て  
 ゆききりきれは縁合し進ずる高の色糸してつひのこ  
 たりて死なばうせし家又かへぬ出家おほむらひて河



より珍しし法傳衣と又母の亡靈イマタマをタラシて西牌の衣を縫とよき  
此寺と出て陸奥國ムツヒのカシに。膳澤郡衣川の漁障子カシの  
あり。酢崎川亦須河川より川の釣と投ナる。そとちよのどサカて所カ回  
本説のカり。いハて其ツ知ツるカのカ。其カのカ。今カ。白カ。園カのカ。  
止カ。うカ。きカ。れカ。此カ。祝カ。のカ。應カ。とカ。以カ。佛カ。利カ。一カ。宇カ。とカ。建カ。まカ。しカ。てカ。永カ。徳カ。寺カ。とカ。  
号カ。くカ。道カ。叟カ。此カ。寺カ。のカ。開カ。祖カ。とカ。件カ。つカ。まカ。いカ。まカ。すカ。おカ。ほカ。てカ。淨カ。吊カ。釣カ。加カ。二カ。尺カ。  
々カ。其カ。後カ。出カ。羽カ。のカ。永カ。承カ。寺カ。とカ。退カ。轉カ。よカ。らカ。ひカ。てカ。住カ。傍カ。をカ。れカ。永カ。徳カ。寺カ。のカ。十カ。世カ。  
廣カ。山カ。東カ。菊カ。和カ。尚カ。とカ。中カ。興カ。のカ。開カ。基カ。とカ。せカ。うカ。道カ。叟カ。禪カ。師カ。みカ。りカ。くカ。膳カ。澤カ。院カ。  
永カ。徳カ。寺カ。にカ。於カ。てカ。示カ。寂カ。給カ。とカ。しカ。りカ。

○開祖禪師永徳寺十世廣山東菊和尚享祿元年戊子ノ  
九月五日遷化○二世道翁授性和尚元和元年乙卯四月十日遷化

○二世通室受達和尚正保元年甲申四月七日化○四世徳超祖  
三和尚延宝八年庚申十月廿三日化○五世超外哲全和尚貞  
享元年甲子三月廿五日化○六世却覚拙卓和尚元祿六年  
癸酉八月廿一日化○七世風山義薫和尚元祿十二年己卯十月廿  
八世蘭洲瑞堂和尚享保八年癸卯三月廿日化○九世通寛  
義達和尚享保六年辛丑五月廿日化○十世海翁南針和尚  
享保十年丙午五月十八日化○十一世了之継解和尚明和八年辛  
酉十二月十日化○十二世松居獅嶽和尚宝曆八年戊寅九月十日化  
○十三世方圓良廣和尚天明三年癸卯正月十日化○十四世菊翁  
全英和尚寛政六年丙辰八月廿四日化○十五世吳倫秀苗和尚  
當寺正門院移轉○十六世東林寛了和尚辨勝院移轉

○十七世巨海惠龍和尚天明五年己丑月九日化 ○十八世鐵山獨秀

和尚文政四年辛巳四月十七日化 ○十九世獨照玉轉和尚文化十四年

丁丑八月二日化 ○二十世當時現住獨仙智峰

○そし此寺の大檀那六郎兵庫頭殿の菩提寺うらなるを以て  
盆の編カハラ木獅子等いは此寺まなるを以て善應寺に人善應寺

一向宗つつとて年か々々いわめせし禁式あら此寺の與あ方の神主

安置あらせしけり此寺の輪番寺にて平鹿郡大森の大

慈寺雄勝郡山田の最禪寺秋田郡松原の神陀寺仙北郡大倉の

大川寺の同郡當寺のうら能登國總持寺に勤仕の由こ意あら

○什物温榮像の来由 奉温榮像書寫事

大檀那藤原朝臣三階堂彈正忠道行幡下之以奉加諸願成就

皆令満足不<sub>レ</sub>也

出羽国山本郡六郎

本領金子備中守宗俊同  
権大僧郁宝泉坊

龍雲山永泉禪寺住持比丘旭山代寄附

于時天照五丁丑季六月二日敬白

筆者山城國下京四条八重所

本村与五郎  
連書之

卷軸割テ其軸中に此書付出たりては按ふるに是れなるを卷軸の

割軸を割り近世の磨軸の造り也

○久永成本首高氏高寺の大檀那の故ありて今に其を蓮寺淨之宗方

やられりは宗家縁の奥を瞻沢郡の一寺と建立て永徳寺と号す

牌と之を甚に祀ふ之を又な事と形を身に今も亦に永徳寺の

縁記の事甚に後二男行國武者修行心掛回國一武藏云

秀之於仙北郡六郎伊賀守殿奉云後久永行波守行同と名承

伊賀守殿の所内は青小態各久米古郡邊此四人二騎當十武者之  
此阿波守に二子あり嫡子清太郎行宣二男清政即行具と云  
云と見ゆ ○藕絲の袈裟此糸は龍の所製云と云  
あり什物寺寶いと云

○所内方地

○東西廿六間四又五畝二歩 ○南北五十二間四又五畝二分

○本宮山圓福寺

曹洞

○圓福寺

曹洞

○本宮山圓福寺。本山。六鄉龍雲山永泉寺之。○開基  
永泉寺二世通室受達和尚正保元年四月七日遷化  
○二世雪峯淨立和尚寶曆十二年七月三日化。○三世  
大船運秀乃和尚室曆十年四月六日化。○四世觀山宜圓  
和尚室曆十年正月廿八日化。○五世養真補孝和尚  
寬延三年六月廿五日化。○六世德圓通明和尚明和九年  
三月十八日化。○七世異倫秀苗和尚享和三年十二月廿三日化  
○八世鐵山獨秀和尚永泉寺移轉。○九世一峯祖隣  
和尚文化七年十月十五日化。○十世寬海恭禪和尚駒場村  
移轉。○十一世金鱗觀龍和尚文化元年正月六日化。○十二世



極楽寺  
湯殿山極楽寺

湯殿山

極楽寺 行人記

○湯殿山極楽寺は六御赤城村にあり湯殿山二世  
別行の寺に正親町院の御宇永禄九年御筆有浄行人といふ  
ありきゆや湯殿山にあり道中より此所へ来りて  
御形端正と云ふ本に湯殿の寺とありてこれぞ其の寺なり  
有海と云ふも海はこれに北極星を指すなりと云ふ  
此の寺は七重の塔ありていふに経とよみ禮并にふせありて  
靈堂とありてその名は中よりいふに尊く此の寺とありて  
赤城の御よりしてその湯殿山の影と云ふに赤城の山あり  
いふに尊像ありこれと云ふの内にお置ありて湯殿山極楽寺  
と云ふ靈験ありと云ふ尊形こそその後古御兵卒頭殿なり



祈待料にて赤城村に二十石と賜ふに慶長年中。無常の  
 小祠とありて久て遂に城中の祈願所とす。○有海上人の後  
 再建しひよる多きと。○雲海上人再興ありし海上人の記是  
 り。寛永十年四月八日。本海書と云ふ。○  
 出羽國仙北六郷赤城村醫王山極樂寺僧本海云々  
 ○本尊藥師如來古佛之佛子不知。並不動明王。  
 ○什物。湯殿山縁起。祝詞。二卷。古記。一卷。  
 ○當山本寺同國庄内湯殿山表口別當大日坊之  
 ○醫王極樂寺。十世當時。現住量海行人。  
 ○町内地向  
 ○東西廿五間二及廿五歩。南北廿五間二及廿五歩。

○東光山本覺寺 淨土宗

○本覺寺

○浄土宗

○東光山本覺寺 平野国大澤圓通寺の末山にて浄土宗門の寺也  
 此寺古真日午箇嶽モリニヒルガタケ也。體円親の佛刹して天台宗流にして  
 弘治の頃を以て中興常蓮社等譽上人の世より浄土宗門と  
 爲りて今も其の刑基に貞觀のけりや圓仁大師奉勅 秋田郡  
 男鹿の花折山オノガハナノセ赤神山アカノカミに下向の時此岡に坐せりネト多々タタと  
 給ひ多し事ありきと云ふ所のこの草創の大檀越を以て  
 朝臣田村將軍又真畫嶽マコエに非徳六郡の内れ七高山の地は  
 是れも女人紫戒の靈場と云ふ所は諸人群衆して惣業の地と  
 してと傳ふ也コト考ふ真畫山の正面は副川の高カミ神宮寺嶽カミヤウジの古名  
 也コトと傳ふ也コト真畫山の名も負ふ所のけり云ふ所は浄土宗門の山也

と東光山とすも古倉藏よりつらふし、たゞ教國所創等巡禮那  
日出るや、老いゆり紀とよまるも東光山よりなる意あり、山とす  
此本覚寺のいふ、真早箇嶽の麓あり元本堂村に在りつ、は  
とす、巨之寺上本堂村本覚寺の本堂ありつ、  
か、い、ま、本堂家の苗は、山村より自ら即名を、  
時つつ、事、ま、  
り、ま、  
野のと、  
来、  
河の邊、  
此藤光坊は、  
再興して本堂家の靈牌と安置、善達寺とし、  
藤光坊と、  
多、  
藤光坊と、  
多、

寄附あり、イナリと傳ふ寺の台記よ  
本覚寺の什物、本堂大膳法名、覺心、鏡甲馬具、太刀、四帶、  
長刀、一振、寄附あり、これと昔武益と、  
い、  
本覚寺の條、  
此山、  
觀世音の脇士、  
本堂家の鎮守、  
今、  
祭日、  
七十三代、

毘沙門王と勸請ありし。元本堂村の裾野の内は春日の  
營地といふ所あり。松と杉の樹多し。今方々石杯の  
跡あり。野に道あり。上りて寺とて。昔の道より  
下りて寺の近邊とてあり。

○秋田順禮札所第十四番山本郡郡名六卿の郷東光  
山本覚寺の正観音。河内國藤井寺の觀世音と奉る。  
觀音御長二尺五寸。大佛師定朝作ことなり。  
伽藍開基記十卷。後一條帝治安二年。佛工  
定朝得法橋上人位。佛工綱信自朝始。朝造法  
成寺之佛像。好故登綱位。至元禄己年六百六十七年。  
教圓阿闍梨巡禮歌も。目つと名考も傳き。後の坊

大悲の誓ひ本堂の寺。普門品偈問中。慧日破諸闇。  
普明照世間。の意ありて。教圓阿闍梨ふととて。世の傳へ  
其名あり。言今著聞集一卷。神祇の今より。長曆二年。  
天台座主院して。まゝ。その教圓僧都明尊僧正。同  
宗のあえ有る。山僧教圓とて。此より。とて。念状して。予  
とて。のや。その教圓僧都。座主に。成り。頼壽。良圓。西僧都。  
蜂起の強り。とて。勅勅と。あり。とて。とて。今昔物語。東  
教圓あざりの事。見。此書編集作者。宇治大納言降國卿。毛  
七十代。後冷泉院。おは。まつ。て。親過。浅く。まじ。卿。と。所。世。を  
康平。治曆。延久。の。外。も。あり。と。長曆。二十。九。代。東。雀。の  
帝。の。世。り。て。編。年。た。り。て。文。政。世。り。ま。り。凡。八。百。年。経。つ。た。

人皇百三代後花園院御宇康正二年丙子大地震より仍て山  
古跡山上に在り元本堂村の前山に觀音堂ありしとせしむる  
地畠を移ししとせしむるに瘞をの掃ふ地をりこれ觀音堂  
との由来あるをわづれ本堂寺の天台のいしを寺のいし

○百四代後土御門院御宇延徳二年十月の觀音堂と  
蛇窟を移して御堂東向に建之し給ふと幕林の觀音  
をいしむるに本堂出羽守殿に此蛇窟の迹を居城の  
ありしとる天文四年領地増長していし本堂家取原に  
○惠心僧都彫刻の正觀音像万治の頃當寺の檀越の  
西鳥羽正右エ門の願ひかゝりて此尊形を當所の臨濟宗大桂寺へ  
受與之し寺の記録に見えし

○淳土宗名越派東光本覺寺中興祖常蓮社等誓上人  
十二年甲申六月廿二日遷化壽八十二歳○二世法誓上人○三世  
良王上人慶長六年以近封に依りて本堂の城を關東  
遷り給ふ給て後 眞信公六御の馭の古城に所隱居に館を  
造り給ふ給て近村にある寺院にありしを移し給て  
慶長八年檀越の人々もあまし引具て此六にのりまを  
移り草庵とししめていし良王上人教年を経て宿願  
今六御の本道町をふちりしに本堂町を作らして  
本覺寺の檀家の人々もいしむるに依りて此所の名實に  
○四世良巖上人諱玉堂此良巖玉堂上人は近封  
の時 佐井左衛門尉義種公は關東より隨身の人ありし

○六脚の控 尾休冠  
 若くししをいふ  
 のりし若宮八幡宮  
 神主とあり、そのふと  
 義種と云ふ此寺よ  
 從五位下佐伯朝臣義種  
 と云神主とあり、  
 寺は佐井義種と云  
 其實名同名、その人  
 是と云ふ(傍)

つりさよりとあり、所修了建ある久保田所住奉の時  
 當寺に若所と云ふ給ひし、ゆ時當寺の佛前  
 義種と訪給ひて、本尊のわきとく之給ひて此寺  
 東廂の河原院如來、安阿流く作 並三具足等西界内 所長三尺  
 ありしを、此本尊、常陸國府中の禰光寺の本尊  
 なる、是と任信、并請て臨終の本と云給ひて恒  
 此本尊と寄進ありしは、此良嚴上人、義種との一門ユカリとも  
 たり上人終享のとき、人より道意そく弟子正意せし  
 西人の醫師と有、あられま、存生のや記、衣收、ゆ具、  
 まん、そのく、よ、今力、ゆひ多し、はま、玉堂上人、關東住來の

と記、常陸國府中の禰光寺、止宿せし、堂舎、近年建替、  
 新しく、名れ、佛壇、たのむ、古林、ま、たのむ、須彌臺の、  
 佐竹左衛門尉寄進と書附あり、つと、と、たのむ、

- 五世良然上人、諱、嚴靈、真州、南部人、本國より化
- 六世良基上人、諱、門隨、七世深善上人、諱、存朝、八世
- 良覺上人、九世良現上人、十世良賢上人、諱、團靈、十一世
- 良卓上人、諱、龍玄、此師云、玉堂上人、嗣法弟子、當寺
- 回祿已後の任職、うて、力と盡て、堂舎と建、其、たのむ、
- 壽六十三歳化、十二世良向上人、諱、龍剛、十三世良靜
- 上人、諱、玄也、十四世良稱上人、諱、鎮固、十五世良折言、薰
- 固上人、十六世良休、團同上人、十七世良教、薰、孩上人、

○十世良童薰貞上人 ○十九世良音見元上人 ○二十世良心  
 薰雄上人 ○廿一世良奏真徹上人 ○廿二世良政雲蓋  
 上人 ○廿三世良毅津糸上人 ○廿四世良得惠徹上人  
 ○廿五世良尊敬巖上人 ○廿六世良行惠順上人 ○廿七世  
 良淨實明上人 ○廿八世良善教順上人 以上人、陸奥産  
 白河の龍水山常泉寺より、當寺に移轉し、良善上人、漢  
 画風と好て常より画り、画名と白雲道人と云、画道の因あり、  
 文化元年の夏、佐中、大樹院に、大匠、所往來の時、所用人  
 先須平馬と云人と所使として、久松家の系譜と所内院  
 あそはせられたり、此のあたりに、此白雲道人をまつて、  
 此の記に、白雲道人の稱領し、居り、真翰の書画あり。

此奥の記に、白雲道人、白河常泉寺の住職中、其頃、  
 御大老白川少将定信公「好古十集」といふ、所輯録の頃、  
 白雲道人の命と云り、諸國遍歴して諸社諸寺の重寶の古画古品  
 等と、こゝに、摹寫し、その序を、自ら、認り、強し、  
 古碑古鏡古瓦、古物の摺物、あり、此、此、卷物三軸、今、此  
 本覚寺、純波、紀念の遺物、古筆の大般若經二卷あり、其文、  
 ○大般若波羅密多經、卷第、三百六十卷、末、散位安部定親  
 女共二親為、一、五百世二卷、末、死、矢、決、而、不、消、无、福、樂、而  
 不成、般若之、金言、真空之、妙曲、被、稱、諸佛之、父母、賢、聖之、師  
 範也、斯、以、至、誠、奉、寫、大般若經部、六百卷、三、世、大覚、十方、賢  
 聖、咸、共、證明、我、現、常、之、勝、願、名、定、成就、貞、觀、十、三、  
 歲、次、三月

三月檀主前上野國大目從六位下安倍朝臣小水磨と名、  
 寺三卷の一ノ鬼路橋の碑銘。塊ノ横流云大化二年云、  
 碑裡ノ鬼道橋碑毀廢埋没不知其幾百載矣云。寛政癸  
 丑九月碑成曰係其事以永不朽。尾張中州維禎撰  
 小林亮適書並督工。○河内野谷金剛琳寺神寶垣鏡。  
 其七寸七分。圖鏡之内ノ釵形あり。経津神寶中ノつゝきと名。  
 河内天香山之土造り。天平三年三月朔日云と名。  
 ○同國高貴寺弘法大師書塔婆之圖。す。  
 ○讃岐國松山下遍昭院古瓦。天治元年八月廿日。弘法大師  
 急氏山遍照院云と名。  
 ○那須大宮繪馬。康治二年癸十月二日。助六と名。

○妙法蓮華經卷第八。日本國。康治二年九月七日云、  
 僧覺智云。○河内國葛井寺瓦。子且山寺云と名。  
 ○二之卷ノ内小  
 ○下野郡須大宮温泉宮神寶。琵琶。  
 高尾昌云。以寶我先君所遺受り。祈武運。名  
 譽資隆。元〇〇七月日。  
 ○播州書馬山什寶。建久六年八月朔日。恭菴十日禮拜  
 高遍。正治二年十月十七日再奉法花讀誦。真性  
 親王。○大及長柄角満寺鐘銘。永和五年。  
 仲呂云。○京深草法性寺。瓦跡出。鉄燈籠籠籠銘。



弘長二年壬戌三月九日初進一 ○屋島寺鐘銘

貞應二年十月廿二日

河内國古市郡古市寺古瓦

嘉吉元年九月日

筑前州筑紫宮鐘銘 奉 施入筑紫大明神

永徳甲子三月吉日

備中古備津宮鐘

永徳十七年庚卯月九日

備后州深津江午頭天王鑿

于時天文一八月

三卷之内

孝謙天皇勅書 天平勝寶二年二月廿二日

東大寺永用

大坂落城卯之年圖 讚州元高松某藏板

糸のせいあま入るれ城をさるまは火の吹をまはれ  
下海まき多たはほの武者もまうてたひふみせんまはれ  
くよる童女の力をまふあまをまもるまもるふくろく西  
その世れさまが思ひかれの事。極ちりる免一に  
わゆる事かといふしてちり残つたものちりる珠し

廿九世當時現住良廣順鳳上人にて廿世良善  
教順上人の直弟子也

塔中二菴あり。 ○浄正菴。 ○春淨菴。

春淨菴元禄の奉の用其言と云う。舊本六郡順禮記の始。○人皇百十四代。東山院御宇元禄土寅年。横手禪光明寺の住僧白道和尚六郷本覺寺の住僧薰同和尚。小西淨心法師敦賀屋禪道專法師禪巡禮と云々云々。此薰同和尚。和尚。本覺寺の十五世。小西慶吉匡之云々。此小西安譽淨心大徳匡之匡七世の祖。淨心一人の愛娘と早世匡の匡あり。雜髮して法号と淨心と云々。其法号と春智童女と云々。此春智童女。喜提の力。一宇と建させり。今の春淨菴是之と云う。此本覺寺。古記寺にて。由緒古記録の外。寺寶等もいと多し。廢退して後。傳匡さし。近世良善教順和尚皇の世の多し。

示 覆 鉢 与 竹 山 丸

齋 修 音

福 東 山 丸

以酒耳秋聲

文化紀元啓念冲流

七古後破曉書乞氣

于叶陰在屋

上采山家

六御本覺寺所藏  
河内國駒谷金剛琳寺  
神寶、垣鏡。  
巨七寸七分。  
墨摺黒地。  
面小雲中  
日の形ありまゝ  
再い是と摹之



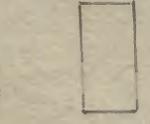
六御本覺寺所藏  
河内國駒谷金剛琳寺  
神寶、垣鏡。  
巨七寸七分。  
墨摺黒地。  
面小雲中  
日の形ありまゝ  
再い是と摹之

を順路  
とす 等を過ぐ伊豆国加茂郡三嶋驛に到るを  
順路とす云云

新宿

伏見

七日市場  
船越  
北条部  
村松  
三澤  
加茂  
駒越

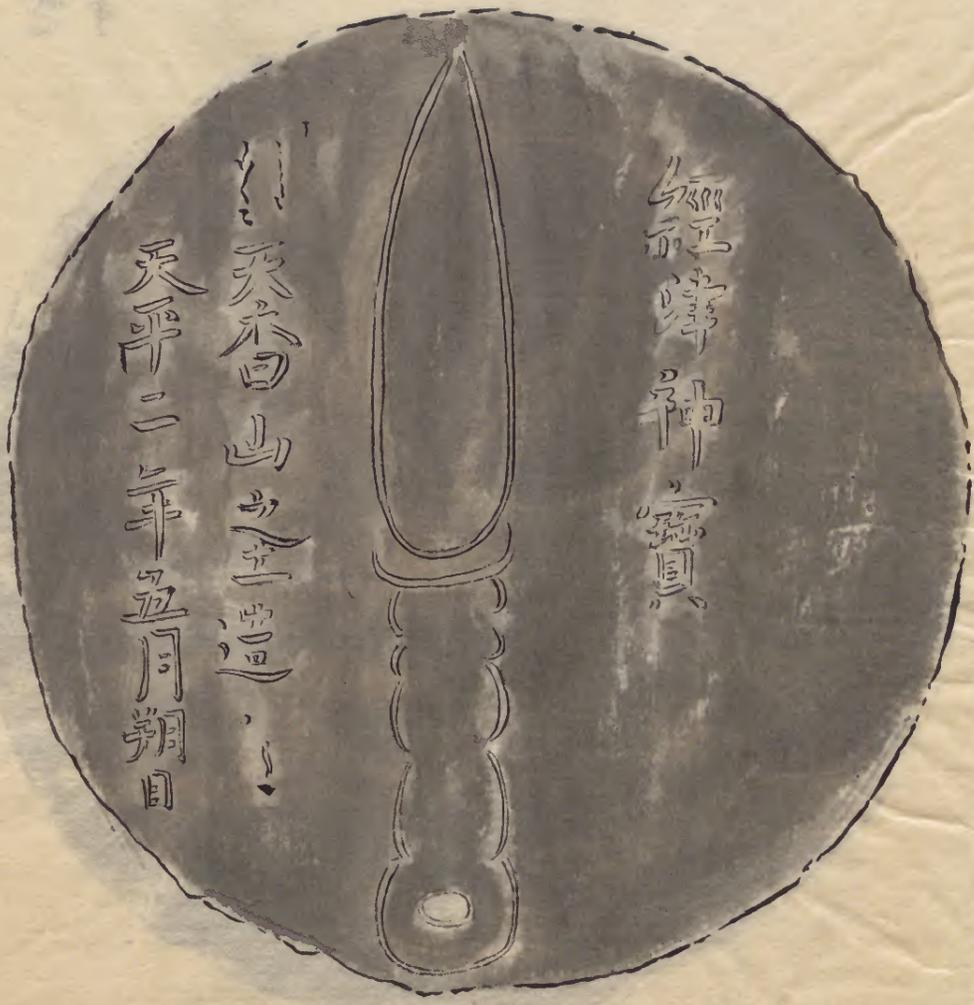


下清水

上

三保

○垣鏡其裡  
共縮莫年書  
寫。



經緯神寶

天平二年五月朔日

○明兆吉山画維摩居士

神清貞古春林秀行

潔情忘杖水澄秋水

春林真更相何芳

子上丹青

天應庚申十月十八日

沈徒弟寫吾陋質

請贊云 靈山叟印

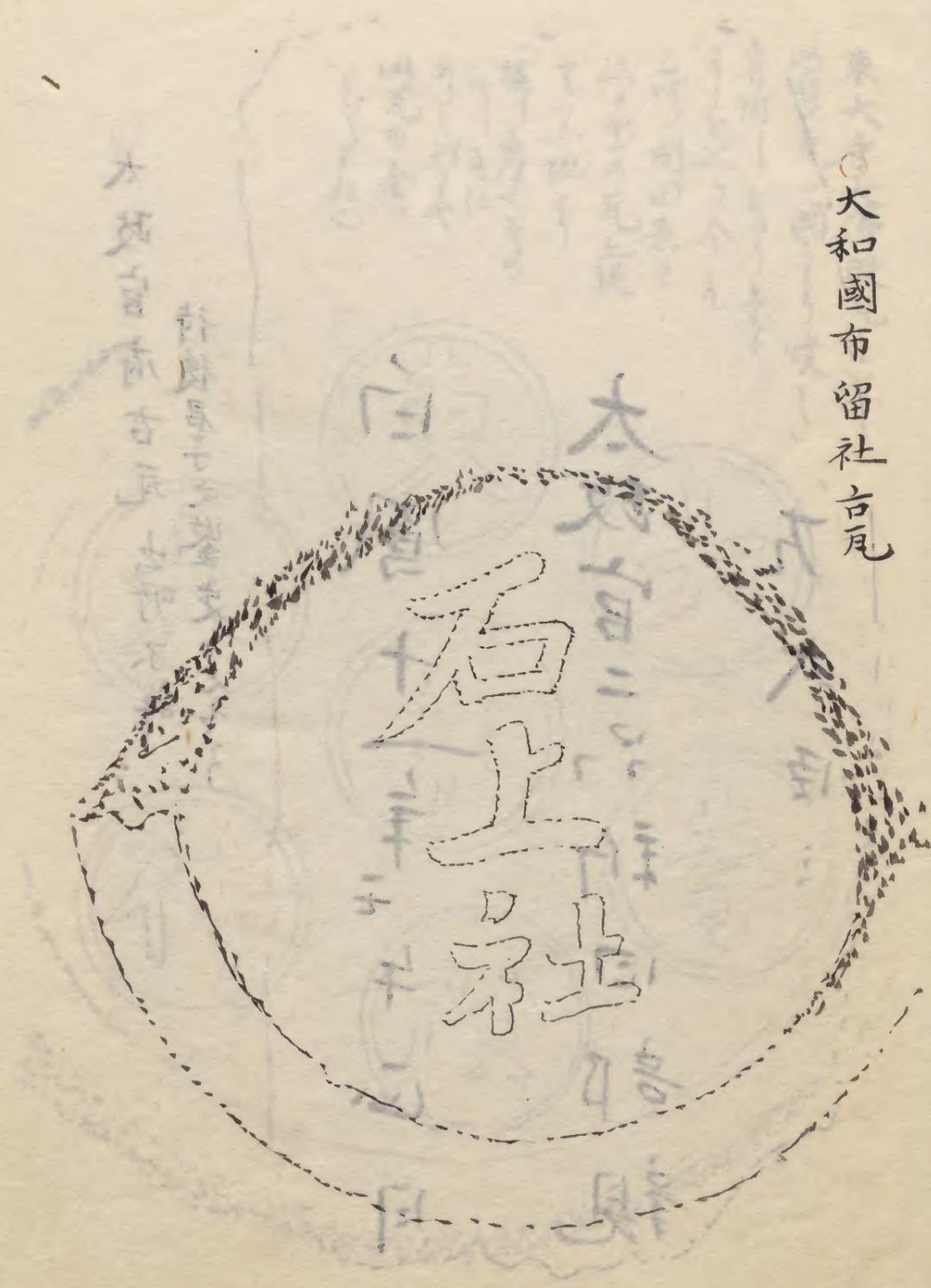
○圓光大師一教起請文

無能和尚傑筆





大和國布留社古瓦



○此寺廿八世良善教順和尚雅名と白雲上人と後小出上人の塔を白川畔の中に

春祝言 久方の天津みそと出御男新御しきと所代のはつまる

山花と 桜む垂りししそ風の流ぬるわひのあふれまもと

江上 浪連江や浦吹風も長栄うそ 流流はるかにあふれり

夜時鳥 一羽にうつよすつ程おの 子りわくきんあまごこの空

待月 さらさらしむとをふみふれ 塔の月を心をつらむ秋のよ

夜持衣 さらさらの文りまににらめく 塔のまれとわさやまこや

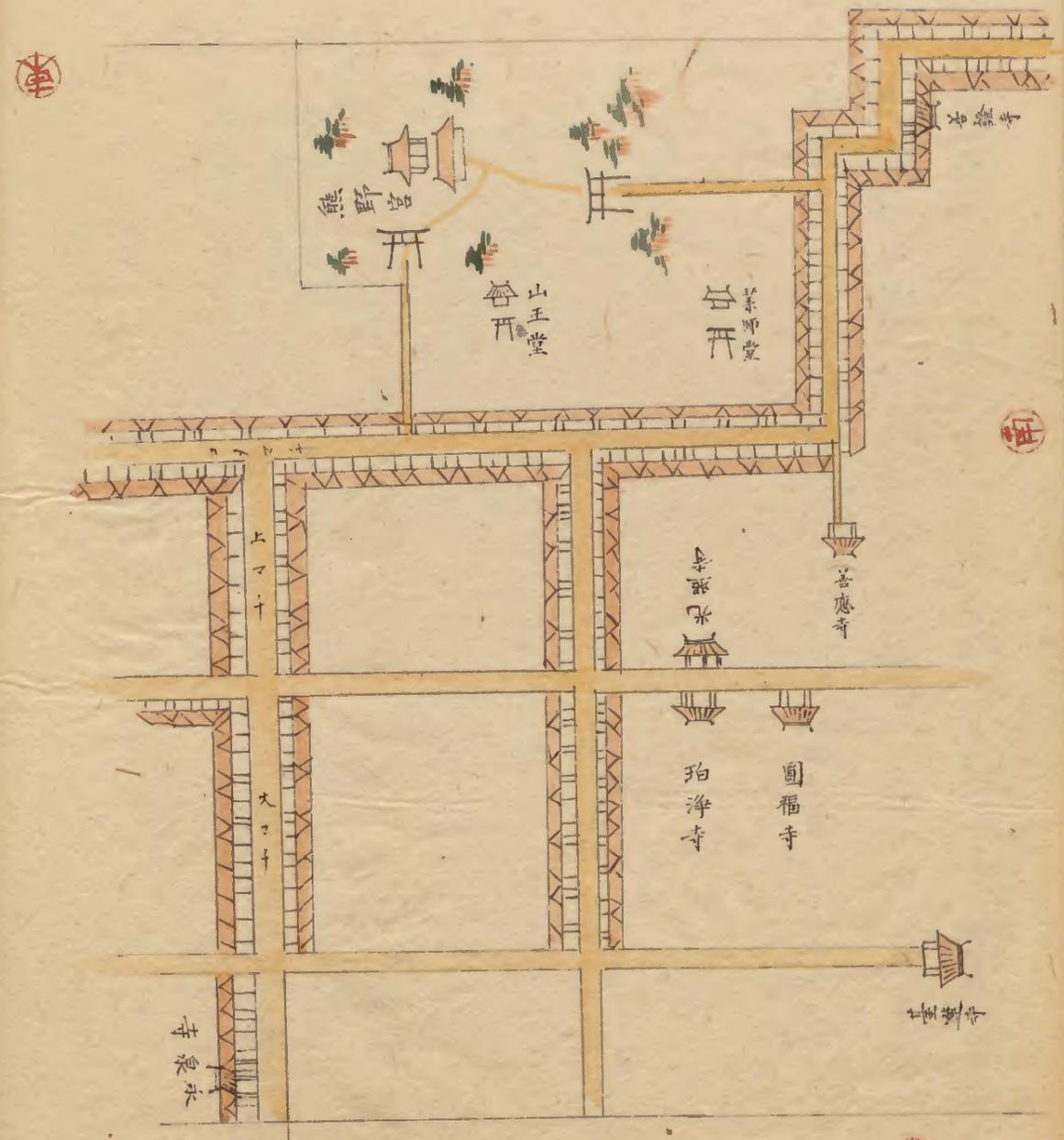
仙家 見家 世の外は住む仙人も千代うきし柳やうひまふきの花

江上 冬月 飯方潮氷の上よわかえすし 月ををの光りしきま

山家 山家の暮れぬるあふれく 月ををの光りしきま

秋待夜 さらさらの文りまににらめく 塔のまれとわさやまこや





六卿諸寺院部

下卷



六職書考新傳

丁卷



五十六



紙數 五十六枚

内文庫

